

イチゴ高設栽培での培地温の局所管理 による複数品種同時栽培

【背景・目的・成果】

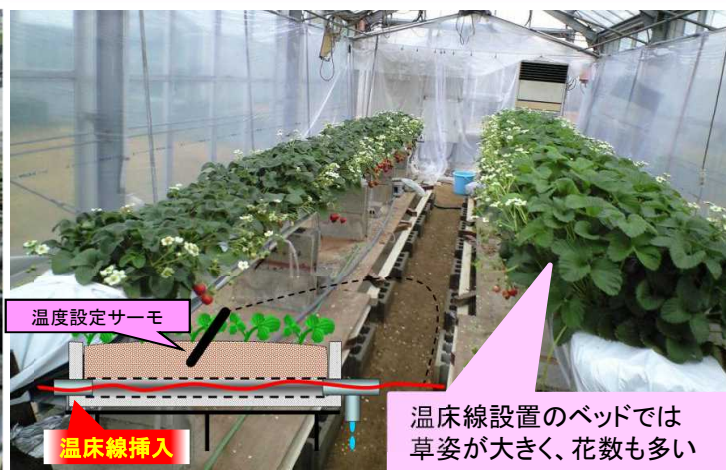
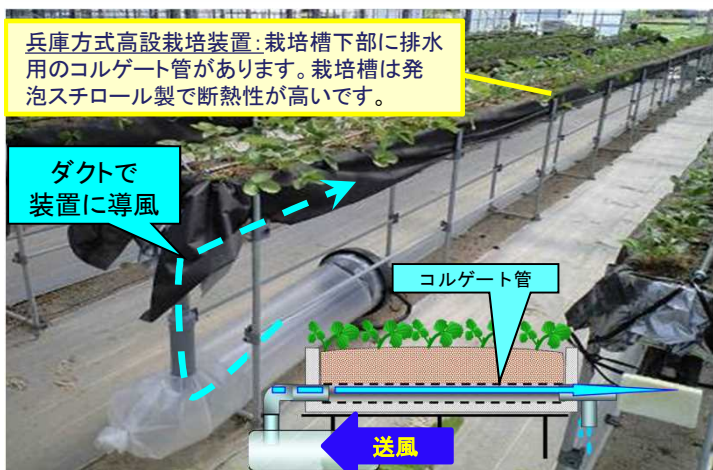
イチゴは栽培特性の品種間差が大きく、品種毎に温度管理方法が異なります。そこで、兵庫方式高設栽培装置に、培地内送風による冷却や温床線による培地加温装置を用い、同一施設内での複数品種同時栽培を可能にしました。

■ **培地内送風冷却**: 培地内の送風で培地温が最大3°C低下→低温を感知させて花芽分化遅延を回避

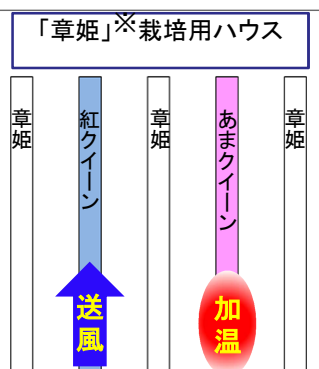
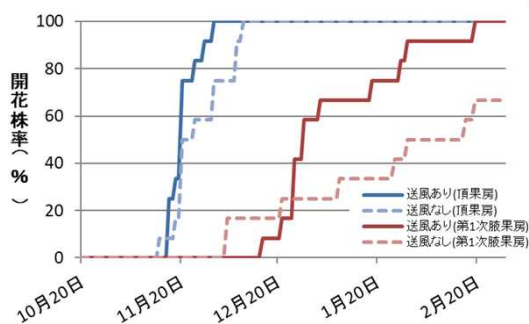
※イチゴは秋の短日と低温を感知して花芽をつけます

■ **温床線による培地加温**: サーモで夜間に稼働、培地温を終日高く維持可能→草勢を維持できます

※低温に弱い品種では、真冬の低温で休眠しようとし、成長が鈍化します



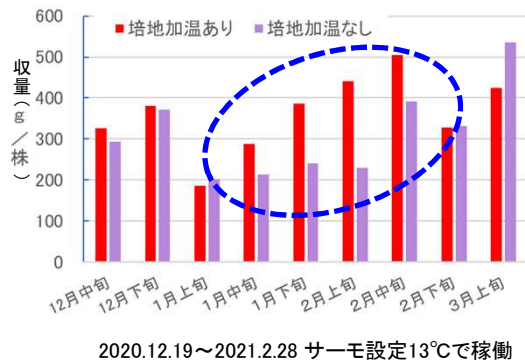
■ **花芽分化の促進**: 遅れやばらつきが小さくなり、開花が安定



活用例
一般品種「章姫」ハウスに、「あまクイーン」、「紅クイーン」を同時に作付け

※「章姫」: 県内有力品種の一つで、比較的高温でも花芽分化可能、寒さにも強く、栽培しやすい。

■ **収量の増加**: 草勢維持の結果順調に開花し、厳寒期の収量が増加



「紅クイーン」など、花芽分化に低温要求性が高い品種を栽培するベッドには、**定植後に送風を行い開花促進**

「あまクイーン」など、低温に弱い品種を栽培するベッドには、**厳寒期に温床線で加温して草勢維持**

【技術の活用】

- ・必要資材は、送風: パイプ類(800円/ベッド)、必要量のダクト+送風機(3ベッド程度共用可能)。
加温: 温床線(上記試験では100V・500W ※消費電力量が大きいため注意)+電子サーモ(100V・10A)。
- ・作付規模、設置したいベッド数、装置とそれに応じた電気容量、他方式栽培装置への適応等、事前に十分な検討を行う必要があります。

